

第6回スポーツによる地域活性化懇話会 概要

1. 日時

令和2年11月26日（木曜日）午前10時00分～午前11時00分

2. 場所

山梨県庁2階特別会議室（テレビ会議システム）

3. 出席者

○ 構成員

高橋義雄、大浦征也、中嶋文彦、古屋光司、山下修作、吉永憲

※座長以外は五十音順、敬称略

○ 山梨県

知事、スポーツ振興局長

4. 会議概要

- ・ スポーツによる地域活性化を目指すのであれば、当然雇用の受け皿も必要となるが、やはり人数的に受け皿として多いのは飲食産業と宿泊産業。ここにお金を落とせるような流れができれば山梨県の経済活性化に繋がる。
- ・ コロナによって、観光のあり方が様変わりしており、従来の観光の概念ではもうやっていけない。今までのコンテンツがコンテンツとして通用するのかすら問われるような状況で、総合球技場についても、そもそも本当にそこに人が集められるのかということも考えなければならない状況が起こりうる。
- ・ スポーツを手段として来てくれた人が、地元泊まったり、飲食したりして県全体が潤うことが重要で、スポーツ自体の売り上げを上げるというよりも、スポーツをきっかけとして、県の財政に貢献するということが大事。スポーツコミッションを検討する中でも、必ずそこはぶれないように、スポーツだけ稼げれば良いとしないようにしていくことが大事ではないか。
- ・ 試合の楽しみ方で言うと、今までは、その場所だけでしかライブ体験できなかったものが、極端に言うと海外からでもライバーパーティー、ウォッチパーティーで体感できるという点で、デジタルを使って体感できるものの先駆的な取り組みを山梨は率先して次々やるといったところは、新しいブランドということではできないのではないか。
- ・ スポーツコミッションについては、観光の業界と繋がることと同時に、例えば、新しいテクノロジー系の企業や研究者との繋がりといった観点

があれば、経験をどう拡張するかといった研究部門を持つ、非常に革新的なスポーツコミッションにもなりうる。他の都道府県に無いような、いわゆる最先端のものづくり企業がサポートするようなスポーツコミッションというのは面白い。

- 現地に行かなくても仕事ができるような世界になってきているという常識感の中で、山梨にいたなくても、山梨の地域活性のために力を注ぎたいという方も非常に増えてきている。コロナによって、人の流動化という意味でも常識が変わりつつあることを念頭に置きながら、今後の組織づくりをしていただくと良いのではないか。